

特需に沸いた ロシア市場

W杯や観光年で急拡大の兆し

日本からロシアへの旅行市場が好調だ。昨年の訪露ビザの緩和をきっかけに、今年のサッカー・ワールドカップ(W杯)や「ロシアにおける日本年」開催が市場を活性化。観光地の整備が進んだり、機運が高まったことで、さらなる成長が期待される。

18年は日露の観光交流における大きな節目の年となった。16年の日露首脳会談で合意した人的交流拡大を含む協力プランに基づき18年が「ロシアにおける日本年」と「日本におけるロシア年」に定められ、さまざまな交流イベントが開催された。「ロシアにおける日本年」では歌舞伎公演をはじめ、文化フェスティバル、日ロ関係のシンポジウム、ビジネスフォーラムなど文化・政治・経済各分野の交流イベントが、ロシア国内30以上の州・共和国などで300件以上開催されており、これらの参加者の

渡航需要も増大した。

大学間の交流協定は381件、若者間の交流も17年は1000人規模に達し、前年より倍増した。さらに友好姉妹都市提携は福岡県・ウリヤノフスク州や栃木県・カルーガ州など45件に増えており、各種地域間交流プログラムが行われている。

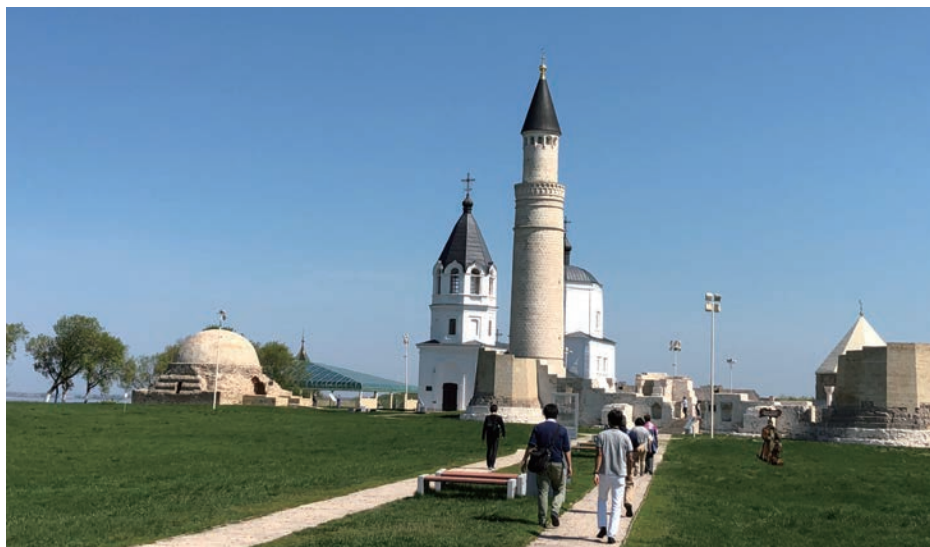
そして6月中旬から7月中旬にかけてサッカーW杯がロシアで開催され、日本が16強まで勝ち進んだこともあり、観戦旅行が盛り上がった。同時に、日本代表が合宿地としたタタールスタン共

和国の首都・カザンの名がたびたび報道され、同地の関心度と認知度も上昇。W杯の開催効果で都市部の治安が改善され、街の美化も進んだことで旅行者にとっては好ましい環境が整ってきた。これにより17年に10万2000人だった日本人客はさらに増大していくものと見られる。

19年の好調も期待

こうした追い風もあって18年のロシア旅行市場は活況を呈した。ロシア関連の旅行・航空関連事業を行うジャパン・エア・トラベル・マーケティング(JATM)の羽田ダッシュ社長は、11月に都内で開催されたロシア旅行セミナーで「18年もロシアは好調で、当社の取扱人数は1万人を初めて超え、航空券の発券も2万3000以上となり、売上高は20億円を超えた」と説明。業績好調をアピールした。

25年以上にわたり日露間の旅行手配を手掛けるインツォーリスト・ジャパンも、W杯の開催期間を中心にロシア旅行の各種問い合わせやビザ業務などで多忙を極め、大会期間の前後も行政機関などの視察旅行需要が例年に増して多



サッカーW杯で一躍有名となったタタールスタン共和国。世界遺産のボルガル遺跡など観光素材も豊富

かったという。

18年の盛り上がりを受けて19年もロシア旅行の好調持続が期待できる。特需は去っても、旅行交流を支える基盤が整ってきているからだ。特に航空会社の路線展開の拡充が進んでいる。昨年、東京就航50周年を迎えたアエロフロート・ロシア航空（SU）は、成田／モスクワ線のロードファクターが往復とも88%以上と好調なことを受けて、来年4月からは機材をA330型からB777-300ER型へ大型化。プレミアムエコノミーで48席、エコノミーで54席、計102席のキャパシティ拡大となる。座席供給力は往復で月に約6000席増加することになる。

S7航空（S7）も日本を含む国際線が18年には12.5%増加したが、日本関連

では成田発着のイルクーツ線とノボシビリスク線を開設。同路線に関しては日本航空と共同運航する形で販売の強化も図っている。

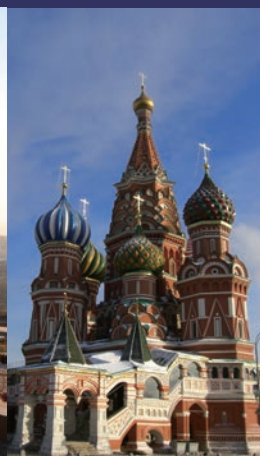
航空会社の路線展開の拡充だけでなく、旅行会社も体制強化を図る。JATMは10月に、同じIAJグループを構成するインターアビエーション・ジャパンなど3社と共に、食品関連事業などを展開するタイヘイグループ傘下に入り、旅行部門を統括するT-LIFEホールディングスでタビックスジャパン、東日観光などと旅行事業を担う。

JATMの羽田社長は「IAJの4社はいずれも業績が伸びている。今後は大会社のサポートを受け、より高品質な商品を安定的に提供していく」とし、19年は今年の伸びを上回る20%程度の

業績拡大を期待している。T-LIFEグループ内の連携では「いずれ何らかの形で協力し合えることもあるはず」（羽田社長）としている。

ロシア現地の受け入れ環境も向上している。極東ロシアではユジノサハリンスク。19年度上期からオーロラ航空（HZ）により週3便運航する予定で、6月中旬から7月中旬はフラワーハイキングに適したデスティネーションとなり、プガチョフスキー泥火山といった新たな観光素材も開発されており、期待が高まっている。

ウラジオストクは日本を含む各国からの国際線が拡大傾向にあるため中国や韓国などを中心に旅行者が急増。ピーク時のホテル確保が難しく、早めの手配が必要になっているほど活況を呈し、



JATM は 2018 年に設立 15 周年を迎えました！

●ロシア系航空会社、販売実績 TOP！

アエロフロート・ロシア航空、S7 航空、オーロラ航空の定期便他、FIT から GRP 対応まで幅広く取り扱い実績豊富です。
新規就航のウラル航空の取扱もスタート！

●ロシアへの航空機チャーター実績 No.1！

●現地手配はもちろんトータルコーディネートに対応！！

現地オペレーターとの長年の実績によるサービスクオリティ向上、現地サポート体制の強化。
当社現地スタッフによる、最新情報の提供から緊急時のバックアップ体制の充実

観光庁長官登録旅行業（第1796号）
JATA正会員 IATA公認 OTOA会員

株式会社
ジャパン・エア・トラベル・マーケティング

東京本社
〒105-0014 東京都港区芝2-3-3
芝二丁目大門ビルディング2F
TEL：03-6453-9159（営業直通）
FAX：03-6453-9224

大阪支店
〒530-0001 大阪府大阪市北区
梅田2-5-8 千代田ビル西別館 3階
TEL06-6456-4577
FAX06-6456-4588



<http://www.jatm.co.jp>

---- J A T M 現地スタッフ駐在都市 ----
モスクワ・サンクトペテルブルグ・キエフ
ウラジオストク・サハリン・ハバロフスク

飲食店等の観光インフラも拡充が目覚ましく、魅力的な観光デスティネーションの条件を整えつつある。

ヨーロッパ・ロシアに関しても話題は多い。モスクワでは観光の新スポットとしてフェデレーションタワー89階にある展望台「パノラマ360」が旅行者の人気を集めるほか、東西冷戦時代の核シェルターを博物館に改装した「バンカー42」といったユニークな観光素材にも注目だ。

サンクトペテルブルクも昨年、鉄道博物館がオープンしたことは鉄道ファンには嬉しい話題。超高層ビルのラフタセンターは近いうちに竣工の運びだが、これが完成すると地上357mの展望台が開業予定で新たな観光スポットとなることが期待される。

業界挙げて強化の動き

日本の旅行業界としてもロシアの伸びは期待のトピックの1つ。JATA(日本旅行業協会)は、ロシア方面の旅行需要活性化に積極的に取り組んでおり、4月の自民党幹事長の二階俊博氏を団長とするロシア訪問団にはJATAからも田川博己会長を含む20人以上が参加。10月の自民党観光立国調査会代表団のモスクワ視察にも菊間潤吾副会長ら4人が参加した。

またJATAのアウトバウンド促進協議会(JOTC)の欧州ロシア分科会では各旅行会社がロシアの商品造成の背中を押しており、ヨーロッパ・ロシアなどの新商品造成につながっている。

旅行会社がプロモーションに使用で



昨年オープンした鉄道博物館。
歴史的な鉄道がずらりと並ぶ

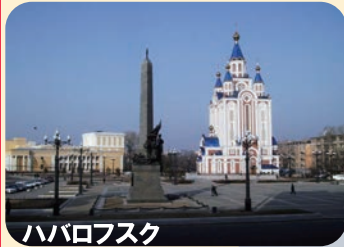
きるツールとして極東ロシアのロゴマークも制作し、ロシアのセールスマニュアルやフォトライブラリーの整備を予定。11月には観光庁や日本政府観光局(JNTO)とともに、日露相互交流拡大ワーキンググループを設置し、19年は14万1000人の送客を目指す。

ロシアの旅行手配はインツーリスト・ジャパンにお任せください



ロシア及び旧ソ連地域(中央アジア、コーカサス、ウクライナ等)を専門とする
ツアーオペレーターです。

ロシア語堪能な日本人スタッフがお客様のご要望を現地にしっかりお伝えします。



ハバロフスク



モスクワ



カザン



ウラジオストク



ウズベキスタン



IntouristTM
インツーリスト・ジャパン Japan

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 2F
【TEL】 03-3238-9117 【FAX】 03-3238-9128
【E-mail】 info@intourist-jpn.co.jp
【URL】 <http://www.intourist-jpn.co.jp>

観光庁長官登録旅行業 第1782号
日本海外ツアーオペレーター協会正会員161号

Добро пожаловать !